

# 令和2年度学校自己評価システムシート (県立宮代高等学校)

目指す学校像	生徒一人ひとりの「よさ」を伸ばし、次代をたくましく生き抜くための学力と規範意識を身に付けた人間を育てる
--------	---

重点目標	1 生徒一人ひとりに見合った学習環境を提供し、基礎学力を確実に向上させ、自ら考え、判断し、表現する力につなげる 2 生徒一人ひとりの資質を把握し、個々に目標・目的を持たせ、規律ある学校生活を送らせる 3 積極的な広報活動を行うとともに、保護者・地域・関係諸機関との連携を強化する
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	9名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 2 月 1 5 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○生涯を通じて自ら学ぶことのできる社会人を育成していくことが求められている。そのために、生徒を積極的に授業に参加させ、できた・わかったにより学習意欲を高める指導が重要である。	基礎学力定着に向けた学習習慣を身に付けさせるとともに、授業研究により指導力向上に取り組む。	①授業を通して予習・授業・復習の学習サイクルをつくる。 ②「未来を拓く『学び』プロジェクトとして、アクティブラーニングによる授業改善を推進し、授業研究に組織的に取り組む。	①学習習慣の定着が図られたか、生徒アンケートによる確認(9割以上) ②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教員の授業改善への参加状況を確認。	①アンケート結果から授業中の態度は「主体的に参加」、「話を聞いて写している」が95%で、これら静かに視写しているという状況は課題である。学習習慣の定着に関してはアンケート内容の見直しも必要。 ②未来学びの参加教諭は23名で、授業研究会を指導助言者により実施するなど組織的に取り組めた。また、宮代特別支援学校と本校ALTとの英語の研究授業の実施。	B	○学びについて生徒が「何を知っているか」にとどまらず、知っていることを活用して「何ができるようになるか」を意識した指導成果の分かるアンケート内容の見直しを図る。 ○生徒の基礎学力向上のため、教員自身の教材研究の向上に努め、アクティブラーニングによる授業での指導力向上を図る。 ○BYOD(bring your own device 私有端末利用)用のネットワーク整備によるICT活用に向けての検討。 ○夏季及び冬季の実力増進講習参加者を増加させ、もう一段高い学力の向上を図る。
	○生徒の大学進学や、就職などの個々の進路に合わせた的確な情報を提供し、進路実現を向上させる。	進路実現に向けた計画的な取組。	①教育課程研究指定事業進路モデルプラン拠点校として、新教育課程を検討し編成する。 ②進路面談を通じた個に応じた進路情報の提供を年間通じて実施。 ③進路実力増進講習の活用。	①学校の目標と生徒の進路を見据えた教育課程の編成を定期委員会で確認する。 ②具体的な進路に向けた意識啓発を、進路関係講座を各学年月1回以上開催し行う。 ③参加生徒の人数を昨年度と比較する。	①各学年毎月1回以上の進路関係ガイダンス等を実施できた。(1学年18回、2学年8回、3学年21回) ②各学年、担任より、進路面談等を年間通じて継続的に実施できた。 ③実力増進講習は、夏季21講座(81名)、冬季8講座(35名)開講し、合計116名の参加であった。講習への参加を促し生徒の自覚を促高めていく。	A	
2	○規律ある生活を通して品格のある高校生活を送ることが求められている。昨年度欠席・遅刻・特別指導、中途退学等の大幅な減少が見られた。引き続き継続した指導が必要である。	生徒指導、教育相談担当を始め、各機関と連携を図り、生徒一人一人の特性や課題を共有する。	①規律ある高校生活を送れるよう、教員全体での保護者と連携した生徒指導の徹底。 ②心のサポート体制の充実。	①登下校時の安全指導の充実と特別指導生徒を前年度より減少させる。 ②カウンセラー及び特別支援コーディネーターの定期活用。	①副担任を中心とする日々の安全指導を行い、交通事故ゼロであった。また、昨年度と比較し欠席、遅刻、早退は4割減少。特別指導対象件数は昨年度に比べ17%減少した。(18件から15件) ②カウンセラー2名(月2回)、特別支援コーディネーター活用による、問題を抱える生徒の相談支援、担任へのフィードバックを適宜行った。	A	○令和4年度分校配置に伴う、障害者理解に向けての取組。 ○生徒会のリーダーシップ育成で、文化祭等の行事を新しい形で実施し、中学生へのアピールをする。 ○イングリッシュサマーキャンプ実施に向けた取組。 ○各種検定試験受験率の向上と、生徒個々のスキルアップによる取組状況の変化を確認。 ○ボランティア活動の実施における支援。
	○生徒会や部活動での活動を通して、学校への帰属意識を高めるとともに、生徒の長所を向上させる取組みを行うことが必要である。	資格試験受検の指導	各種検定、特技・興味ある講習会等の参加を促し、生涯を通じて学ぶ意欲の向上。	各種検定、全生徒の3割、特技・興味ある講習会等の受講者2割以上を目指す。	各種資格試験実施率は全校生徒30%であった。また、救急救命や部活動における審判免許講習などの個人趣味分野での講習会受講率は10%であった(本年度初調査)。来年度の受講者向上を目標とする。	B	
3	○学校が地域の中でどうあるべきかが求められている。今まで以上に地域資源の活用と連携を深めながら積極的な地域とのつながりを行っていく。また、これらが生徒の成長にどのように役立っているか検証することが必要である。	社会教育力(地域教育力)の力強い支援を受け、生涯にわたって学び続ける資質を養う生徒の育成。	地域との情報共有を生かした学習環境の構築と生徒の個々の得意分野を生かした活動の場の提供。	近隣小中学校等との連携による学習活動、地域住民との交流や地域貢献を通しての教員及び生徒の係わり4件以上を目指す。	笠原小学校とのスポーツ交流会(21名参加)、宮代特別支援学校とのZOOMを利用したオンライン交流会(29名参加)の実施を行った。	A	○現在実施している地域交流、異校種交流事業の継続。 ○HPの日々の更新を継続して本校の教育活動をより広く周知する。 ○メール配信システムの更新。
	○保護者・地域への定期的な情報発信により、保護者・地域からの理解・協力を得ることが求められている。	保護者地域への迅速な情報発信。	HPを活用した細やかな情報発信とメール配信システムを活用した家庭との連携強化。	HPの充実を図り、本校の教育活動の魅力を発信、一日平均1,000アクセス以上を目指す。	HPアクセス数は(12/1-1/31)まで約160,000アクセス)1日平均2,500件以上であった。保護者アンケートからは「学校情報が伝えられている」と約86%の好評価結果であった。	A	○各種行事の精選により、働き方改革が必要ではないか。 ○地域交流を良い形で一緒にやっていきたい。また、地元の人たちに引き続き施設の開放をお願いしたい。 ○HP更新において、もっと生徒の学校活動の様子をUPしていただくとう愛着がわく。

学校関係者評価	実施日 令和3年2月18日~3月12日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>○達成状況の①アンケート結果から授業中の態度は「主体的に参加」、「話を聞いて写している」の95%はいかがか。「主体的に参加すなわち、話を聞いて写している」に象徴されるように静かに視写していれば主体的なのかは疑問である。</p> <p>○これからの時代、BYODを活用した授業の積極的な取組が必要ではないか。</p> <p>○進路ガイダンスを月1回以上実施していることは大切だ。また、長期休業中の実力増進講習会の参加生徒を増やし進路実績に繋げていただきたい。</p> <p>○障害者理解について、生徒はもちろん、保護者にも理解をしてもらうことが必要。PTA研修などでの講演計画など検討してはいかがか。 ○中学校から高校への「キャリア・パスポート」の引き継ぎについて、生徒の自己の生き方や進路について高校でも充分に見ていただきたい。 ○各種資格試験の価値をどう捉えているか。ゴールなのかスタートなのか等の視点で見直してはどうか。 ○ボランティアに関しては身近なものから実施することが必要。</p> <p>○各種行事の精選により、働き方改革が必要ではないか。 ○地域交流を良い形で一緒にやっていきたい。また、地元の人たちに引き続き施設の開放をお願いしたい。 ○HP更新において、もっと生徒の学校活動の様子をUPしていただくとう愛着がわく。</p>